



2005年5月期中間決算説明会

m ミタチ産業株式会社



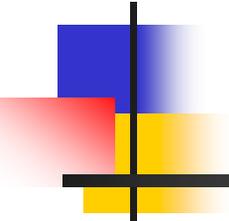
目次

1. 会社概要
2. 2005年5月期 中間決算概要
3. 2005年5月期 通期業績見通し
4. 今後の方向性
5. 中期の業績目標
6. 業績推移(実績・計画)

1. この決算説明資料の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. この決算説明資料は、現時点で入手された情報に基づき当社が判断した予想を記載しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは大きく異なることがあります。



1. 会社概要



会社概要



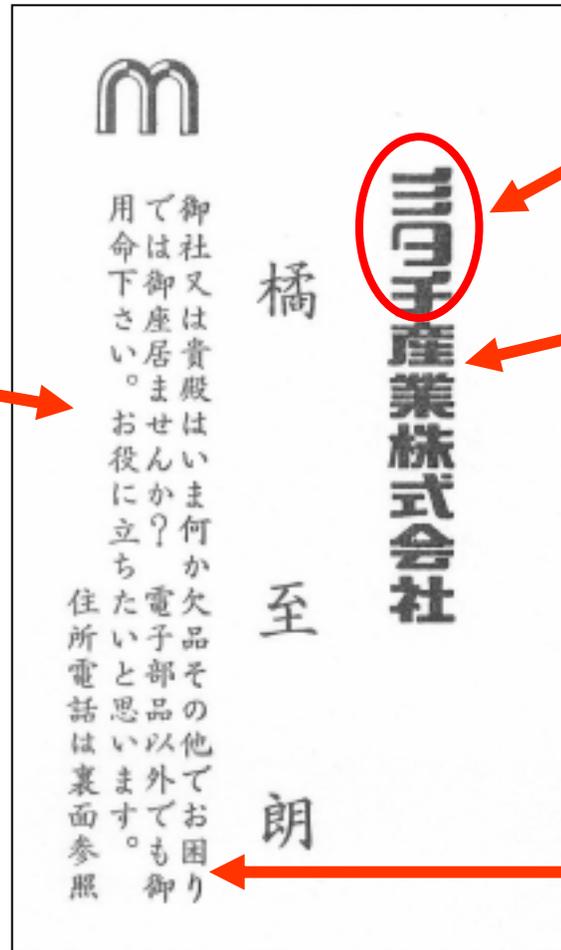
- 本社 : 愛知県名古屋市
- 創業 : 1972年9月
(1976年7月、株式会社に改組)
- 資本金 : 5億2160万円 (04年5月期)
- 代表者 : 代表取締役社長 橘 至朗
- 従業員数 : 116人 (04年5月末、単体)
- 事業内容 : 半導体、電子部品、電子機器などの販売、製造
- 売上高 : 215億円 (04年5月末、連結)
- 経常利益 : 8.2億円 (04年5月末、連結)
- 当期純利益: 4.8億円 (04年5月末、連結)



創業の精神が当社のDNA

創業当時の名刺

御社又は貴殿はいま何か欠品その他でお困りでは御座居ませんか？
電子部品以外でもご用命ください。



お客様と仕入先を
繋ぐ橋(三位一体)

産業であるから、当社は電子部品、半導体にと
られない**事業展開**ができる

お客様の**問題解決**

創造的革新

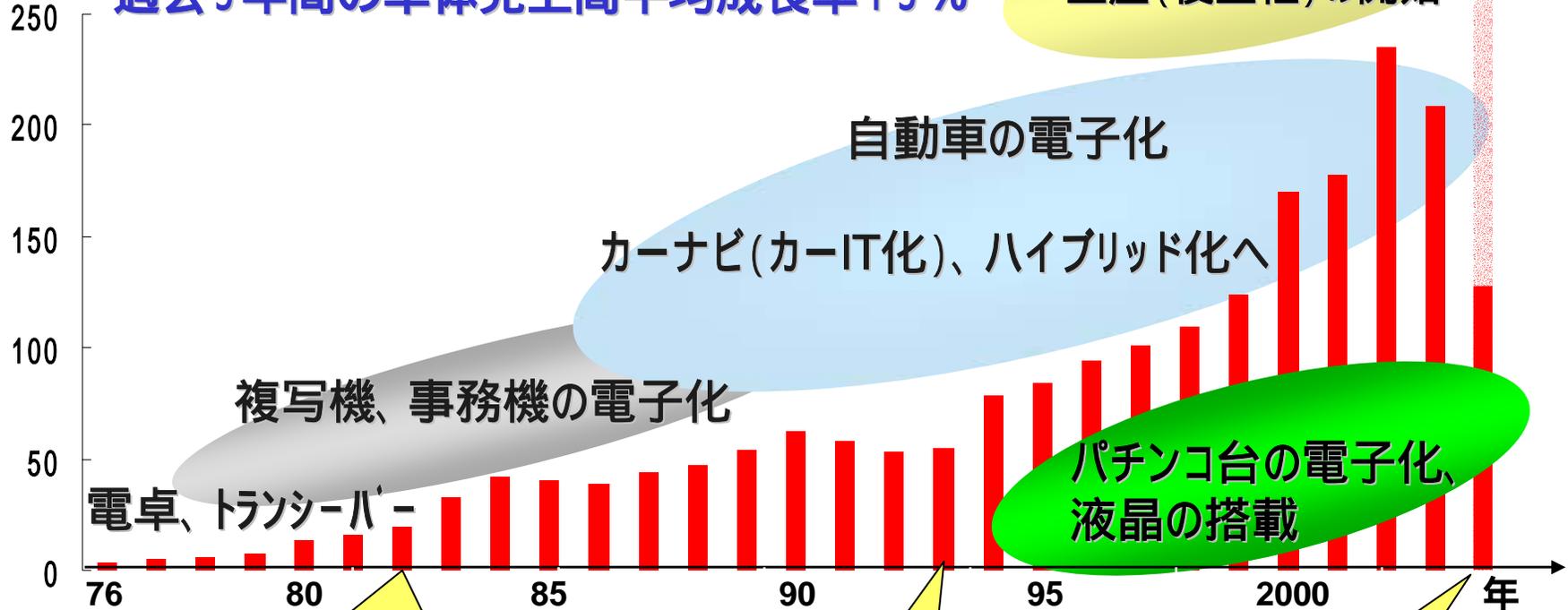
絶え間ない変革を遂げていく



売上高

創業以来、一貫して、成長トレンドを維持
過去5年間の単体売上高平均成長率15%

海外子会社による半導体
生産(後工程)の開始



創業10周年
本社ビル竣工 信用拡大

海外進出

HVモーター
本格化

世界に通用する、変わることのない 経営理念 & 経営哲学



南仏 ガールの水道橋

- 顧客第一主義
- 人間尊重
- 一流へのチャレンジ
- 創造的革新
- 企業の社会的貢献



2. 2005年5月期(第29期) 中間決算概要

1. 通期実績(連結・単体)
2. 部門別売上高(連結)
3. 商品別売上高(連結)
4. 業種別売上高(連結)
5. 主要顧客別売上高(連結)
6. 仕入実績(連結)

第29期中間決算

1. 実績(連結・単体)



単位:百万円

連 結	2004年5月期		2005年5月期 中間			
	中間	通期	金額	前年同期比	期初予想	期初予想比
売上高	9,940	21,513	13,406	+34.9%	12,001	+11.7%
売上総利益	1,152	2,384	1,315	+14.1%	-	-
営業利益	426	860	429	+ 0.7%	355	+20.7%
経常利益	432	826	483	+11.8%	387	+24.7%
当期純利益	219	489	297	+36.0%	221	+34.6%

単 体	2004年5月期		2005年5月期 中間			
	中間	通期	金額	前年同期比	期初予想	期初予想比
売上高	9,818	20,890	12,980	+32.2%	11,608	+11.8%
売上総利益	1,112	2,211	1,202	+ 8.1%	-	-
営業利益	431	789	387	-10.2%	326	+18.8%
経常利益	460	834	437	- 4.9%	364	+20.3%
当期純利益	223	466	255	+14.3%	201	+27.3%

第29期中間決算

1. 実績(連結)



売上高 : • 自動車向けビジネスは好調
• オプトデバイス生産は前半好調だが、秋以降から減少へ
• アミューズメント向けビジネスは、新規格機の立ち上がりにより液晶を中心に回復へ
• ソリューションビジネスが大きく増加

売上総利益 : プロダクトミックスの変化による粗利益率の低下を
売上の増加でカバー

営業利益 : 将来に向けた人材投資により人件費など販管費が増加

経常利益 : 為替差損の解消など子会社収益が改善

当期純利益 : 留保金課税の解消などにより増加

第29期中間決算

2. 部門別売上高(連結)



単位:百万円

商 品	期	2004年5月期中間		2005年5月期中間		
		売上高	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比
デバイス部門		7,417	15,376	-18.9%	9,422	+ 27.0%
ソリューション部門		495	1,258	+ 4.1%	1,252	+152.7%
海外部門		1,691	4,129	+38.5%	2,259	+ 33.6%
その他		335	748	+ 9.4%	471	+ 40.8%
合 計		9,940	21,513	- 9.7%	13,406	+ 34.9%

デバイス部門

- 自動車向けが好調に推移
- アミューズメント向けビジネスは、新規格機の立ち上がりにより液晶を中心に回復へ

ソリューション部門

- 工作機器向け、自動車向けEMSが大きく増加
- MIU Card事業譲受による売上増加

海外部門

- M.A.Technologyのオプトデバイス生産増加

その他部門

- 電子部品実装ラインの設備投資が回復

第29期中間決算

3. 商品別売上高(連結)



単位:百万円

商 品	期	2004年5月期中間		2005年5月期中間		
		売上高	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比
半導体		3,803	7,800	+ 8.7%	4,127	+ 8.5%
液晶		1,950	4,305	-42.3%	2,333	+ 19.6%
電子部品		1,634	3,202	+11.4%	2,015	+ 23.3%
ユニット・アセンブリ		1,884	4,681	- 3.6%	3,475	+ 84.5%
その他		666	1,524	+ 4.7%	1,454	+118.2%
合 計		9,940	21,513	- 9.7%	13,406	+ 34.9%

半導体 自動車向けが好調を維持

液 晶 アミューズメント向け回復へ、カーナビ向けは好調を維持

電子部品 自動車向けが好調を維持

ユニット・アセンブリ

- ・ M.A.Technologyのオプトデバイス生産増加
- ・ 工作機器向け、自動車向けEMSは好調

その他

- ・ ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの販売本格化
- ・ 電子部品実装ラインの販売は堅調

第29期中間決算

4. 業種別売上高(連結)



単位:百万円

	2004年5月期中間	2004年5月期		2005年5月期中間	
	売上高	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比
自動車関連	3,441	7,591	+26.0%	5,312	+54.4%
アミューズ関連	3,282	6,391	-44.2%	3,326	+ 1.3%
その他	3,215	7,530	+18.7%	4,767	+48.3%
合 計	9,940	21,513	- 9.7%	13,406	+34.9%

自 動 車

- ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの販売本格化
- カーナビ向け液晶、自動車向けEMSは好調に推移
- 半導体、電子部品は堅調に推移

アミューズメント

アミューズメント向けビジネスは、新規格機の立ち上がりにより液晶を中心に回復へ

その他

- M.A.Technologyのオプトデバイス生産増加
- 工作機械向けEMSが好調に推移

第29期中間決算

5. 主要顧客別売上高(連結)



単位:百万円

	2004年5月期中間	2004年5月期		2005年5月期中間	
	売上高	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比
アイシン精機(株)グループ	1,987	4,701	+30.6%	3,931	+97.8%
(株)大一商会グループ	2,125	4,289	-51.7%	2,773	+30.5%
シャープ(株)	1,300	3,009	+21.8%	1,815	+39.6%
その他得意先	4,526	9,512	+ 7.3%	4,886	+ 8.0%
合 計	9,940	21,513	- 9.7%	13,406	+34.9%

アイシン精機(株)グループ

- ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの販売本格化
- カーナビ向け液晶、自動車向けEMSは好調に推移
- カーナビ用HDDの納入開始

(株)大一商会グループ

- 新規格対応機向け部材の納入開始
- 電飾モジュールの新規採用、納入開始

シャープ(株)

- オプトデバイス生産は前半好調だが、秋以降から減少へ

第29期決算

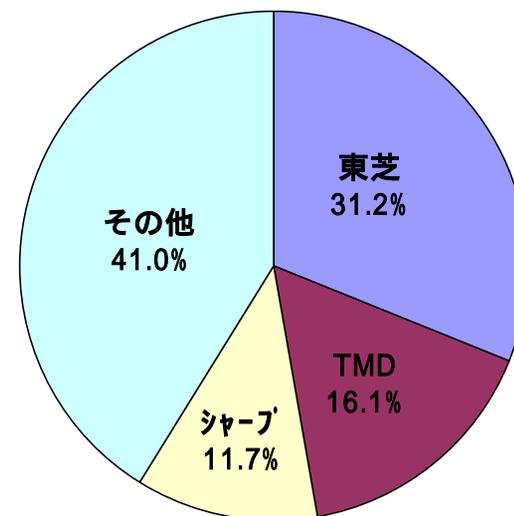


6. 仕入実績・商品別・仕入先別(連結)

単位:百万円

商品別	2004年5月期中間		2004年5月期		2005年5月期中間	
	仕入高		仕入高	前年同期比	仕入高	前年同期比
半導体	3,185		6,668	- 3.2%	3,647	+ 14.5%
液晶	1,913		4,802	-26.0%	1,860	- 2.8%
電子部品	1,357		2,223	- 7.6%	1,831	+ 35.0%
ユニット・アセンブリ	472		1,315	- 8.2%	2,797	+491.7%
その他	1,300		3,878	+35.1%	1,415	+ 8.9%
合 計	8,229		18,889	- 6.0%	11,552	+ 40.4%

仕入先	期	2005年5月期中間	
		金 額	構成比
東芝		3,600	31.2%
東芝松下ディスプレイテクノロジー(TMD)		1,865	16.1%
シャープ		1,350	11.7%
その他		4,736	41.0%





3. 2005年5月期(第29期)見通し

1. 業績見通し(連結)
2. 部門別売上高見通し(連結)
3. 業種別売上高見通し(連結)

第29期決算

1. 業績見通し(連結)



単位:百万円

	2004年5月期	2005年5月期予想	前期比
売上高	21,513	26,900	+25.0%
売上総利益	2,384	2,626	+10.1%
売上総利益率	11.1%	9.8%	-1.3ポイント
営業利益	860	820	-4.7%
営業利益率	4.0%	3.0%	-1.0ポイント
経常利益	826	929	+12.5%
経常利益率	3.8%	3.5%	-0.3ポイント
当期純利益	489	547	+11.7%
当期純利益率	2.3%	2.0%	-0.3ポイント

売上高：自動車向けビジネスが牽引役、アミューズメント向けビジネスも回復へ

売上総利益：高額商品の増加などプロダクトミックスの変化により売上総利益率低下

営業利益：MIU Card事業譲受など人員増、および減価償却費、運送費など
販管費の増加により減少

経常利益：2004年5月期には為替差損が発生、また、上場関連費用も減少

第29期決算

2. 部門別売上高見通し(連結)



単位:百万円

	2004年5月期		2005年5月期予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
デバイス部門	15,376	71.5%	18,800	69.9%	+22.3%
ソリューション部門	1,258	5.8%	2,450	9.1%	+94.7%
海外部門	4,129	19.2%	4,650	17.3%	+12.6%
その他	748	3.5%	1,000	3.7%	+33.6%
合計	21,513	100.0%	26,900	100.0%	+ 25.0%

デバイス部門

自動車向けが好調、ハイブリッドカー用駆動・発電モーターも本格化
新規格対応機の増加によりアミューズメント向け回復

ソリューション部門

工作機器向け、自動車向けEMSが大きく増加
新たにMIU Card事業が寄与

海外部門

M.A.Technologyの工場拡張が寄与

その他部門

自動車業界の設備投資は好調であり、さらなる増加を見込む

第29期決算

3. 業種別売上高見通し(連結)



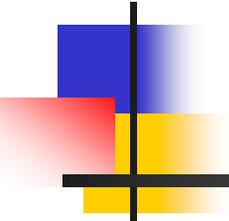
単位:百万円

	2004年5月期		2005年5月期予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
自動車	7,591	35.3%	10,481	39.0%	+38.1%
アミューズメント	6,391	29.7%	7,079	26.3%	+10.8%
その他	7,530	35.0%	9,339	34.7%	+24.0%
合計	21,513	100.0%	26,900	100.0%	+25.0%

自動車 ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの本格化
カーナビ向け液晶は堅調に推移
自動車向けEMSが拡大

アミューズメント 「風営法施行規則等の改正」に対応したパチンコ機による市場回復

その他 M.A.Technologyの工場拡張によりオプトデバイスの生産が増加
工作機械向けEMSが好調



4. 今後の方向性

- 1) アプリケーション別
自動車ビジネス
ソリューションビジネス
アミューズメントビジネス
- 2) 海外戦略
- 3) 効率化の追求

アプリケーション別

アプリケーション	今後の見通し	コメント
自動車		カーナビの発達(ITSへの対応)によるHDDの搭載率増加、ハイブリッド自動車の拡大による新たなパワーエレクトロニクス製品の搭載など、カーエレクトロニクスは大きく拡大
ソリューション		オプトデバイス(海外部門) ・ デジタル家電、携帯・通信機器などの在庫調整などにより、下期はオプトデバイス需要は低迷 ・ 2005年後半には回復を見込む
		ボードアセンブリ(ソリューション部門) ・ カーエレクトロニクス分野のEMS拡大 ・ MIU Card事業など技術部門を拡充
アミューズメント		・ 風営法施行規則等の改正に対応した新台により2004年度下期から、回復を見込む ・ 台、ホール機器の電子化は拡大 ・ アミューズメントビジネスは、ユーザーの人気に左右される懸念がある

中長期の成長性

今期の状況、見通し

自動車ビジネス(1)

カーエレクトロニクスの進展



カーアクセサリー

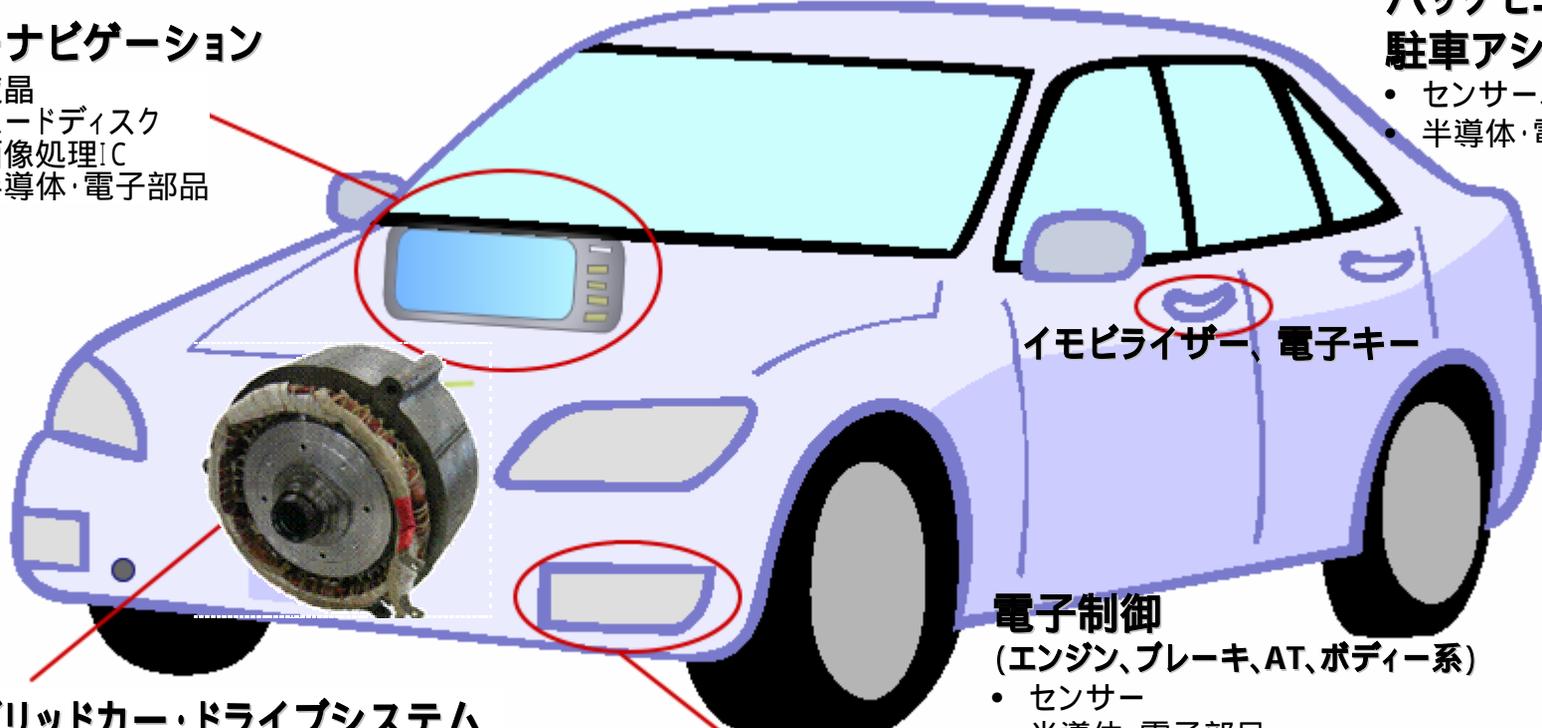
- GPSモジュール
- 半導体・電子部品

バックモニター 駐車アシスト

- センサー、カメラ
- 半導体・電子部品

カーナビゲーション

- 液晶
- ハードディスク
- 画像処理IC
- 半導体・電子部品



イモビライザー、電子キー

電子制御

(エンジン、ブレーキ、AT、ボディー系)

- センサー
- 半導体・電子部品

ランプ(リアコンビネーション、方向指示、ストップ)

- 超高輝度LED

ハイブリッドカー・ドライブシステム

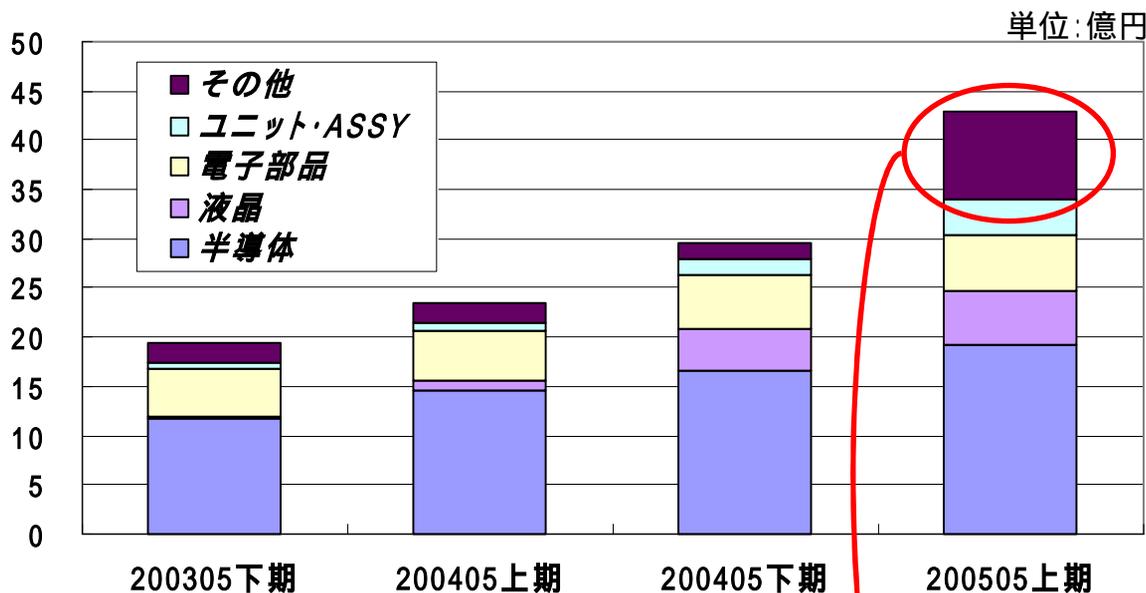
- 駆動・発電用モーター
- パワーデバイス、インバーター
- 半導体・電子部品

ITS (ASV(先進安全自動車)、AHS(走行支援道路システム))

ブラインドコーナーモニター、障害物警報システム、車間距離制御型定速走行システム、居眠り運転警報システム...

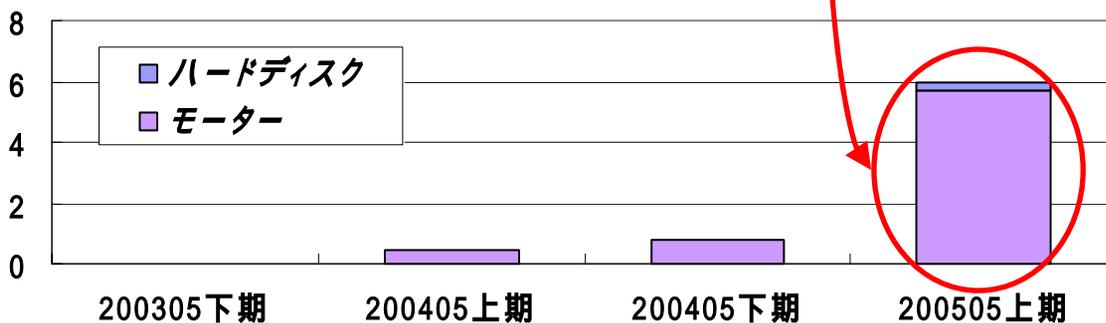
自動車ビジネス(2)

自動車部品メーカー主要4社への販売推移

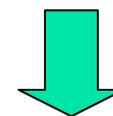


増加要因

- 自動車向けEMSの強化
- ヨーロッパ向けカーナビ市場の拡大
- ハイブリッドモーターの本格化
- 6速化などATの機能拡大
- ASV(先進安全自動車)市場の拡大



成長性のある新規商品



売上拡大

主要4社: アイシン精機(株)、アイシン・エイ・ダブリュ(株)、(株)東海理化、豊田合成(株)



自動車ビジネス(3)

自動車向けビジネスの現状

得意先製品	主要販売品目	主要仕入先
カーナビゲーション	半導体、液晶、電子部品	東芝、東芝松下ディスプレイテクノロジー、ローム、村田製作所
ハイブリッドカー	駆動・発電モーター、半導体、電子部品	東芝
AT、ブレーキなどの電子制御	半導体、電子部品	東芝、ローム、村田製作所、日本電波工業
カーアクセサリ	GPS、半導体、電子部品	古野電気、東芝、ローム

自動車用半導体の世界市場

単位:百万ドル

製品分類	2004年	2007年	年平均成長率 (03~07年)
走行系	5,562	8,880	16.1%
ボディー系	5,951	7,337	7.7%
情報系	3,382	3,735	3.1%
自動車(主要3品目)計	15,366	20,915	10.6%
電子機器計	190,606	235,331	9.0%

出典:日刊工業新聞(2004年5月20日発行)



自動車ビジネス(4)

重点分野

製品分野	現状	将来	エレクトロニクス
ITS分野	カーナビ (地図情報の表示)	映像、音楽、ゲームなど 様々なコンテンツへの対応 インターネットへの対応 運転支援 自動運転へ	液晶の高精細化 カメラ、センサーの搭載 拡大 HDD等、記憶媒体の搭 載拡大
ハイブリッド分野	フォードが2004年 9月にSUVを発売	環境への消費者ニーズ、原 油価格高騰による需要拡大	小信号デバイス中心か らパワーエレクトロニク スへ

重点拡販製品

得意先製品	主要販売品目	コメント
ITS分野	液晶ディスプレイ	カーナビゲーションに採用、順調に拡大
	画像処理CPU	新規受注を目指す
	ハードディスク	2004年6月から納入開始、拡大を期待
ハイブリッド分野	駆動・発電モーター	2004年春から納入を開始、本格化、さらなる拡大を期待
	パワーデバイス	IGBT、電気二重層キャパシタに注力



ソリューションビジネス(1)

■ 生産拠点M.A.Technologyの強化

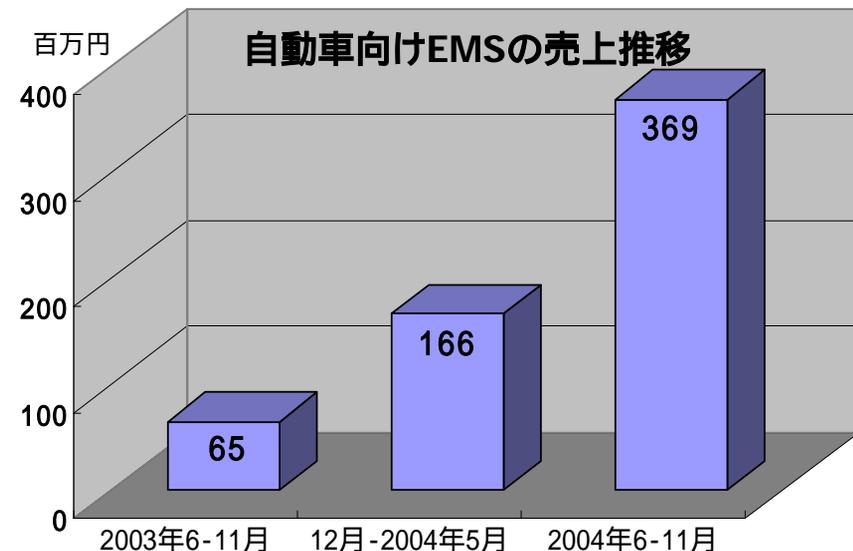
- 生産スペース63%増加(2004年4月)
生産数量、生産品目の拡大を図る
- 積極的な投資の継続 シャープ以外への売上拡大を目指す

■ 国内EMSの強化

- 自動車向けEMSの受注
 - カーナビ基板組付分野へ
- 工作機械分野の拡大

■ 技術・品質部門の充実

- ソリューションビジネス強化を目指し、MIU Card事業譲受
ハード、ソフト技術者を積極的確保
- 品質向上



コスト、生産能力 + 品質の強化 = 競争力確保

受注拡大

ソリューションビジネス(2)

生産拠点 M.A.Technology, Inc.



M.A.Technology, Inc. (フィリピン)
第2工場



工場床面積: 約6,300 m²

従業員: 850名

主要顧客

- ・シャープ(オプトデバイスと化合物半導体)
- ・エプソンフィリピン(プリンタ用部品)
- ・東海理化フィリピン(カーエレクトロニクス)

半導体組付フロントライン(クリーン度1000)

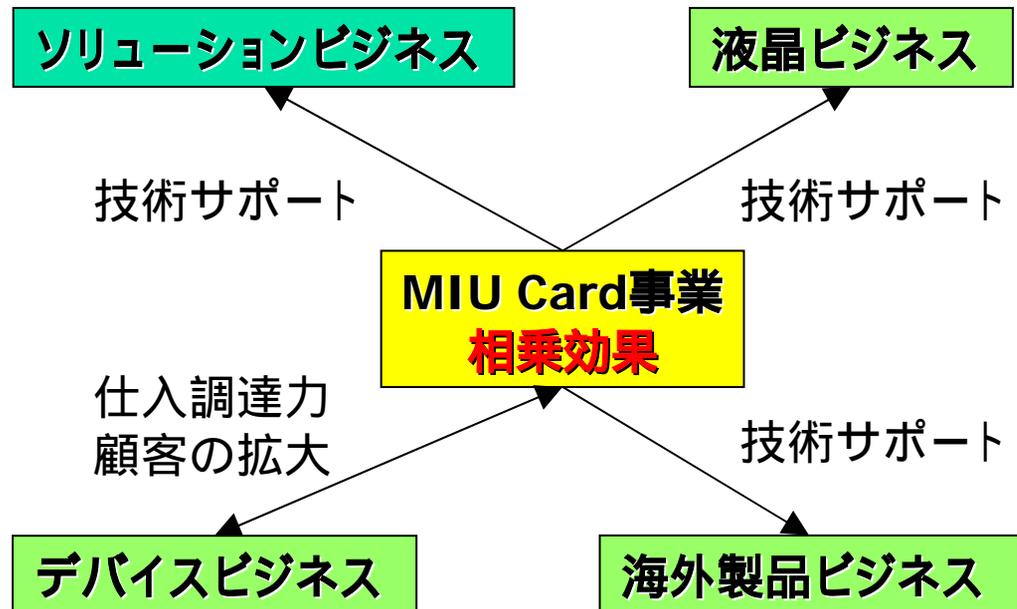


ソリューションビジネス(3) MIU Cardビジネス



■ 2004年8月事業譲受

- 組込用超小型ボードコンピュータ
- FA、産業機器市場が主たるマーケット
- ハードからソフトまで対応できる技術力



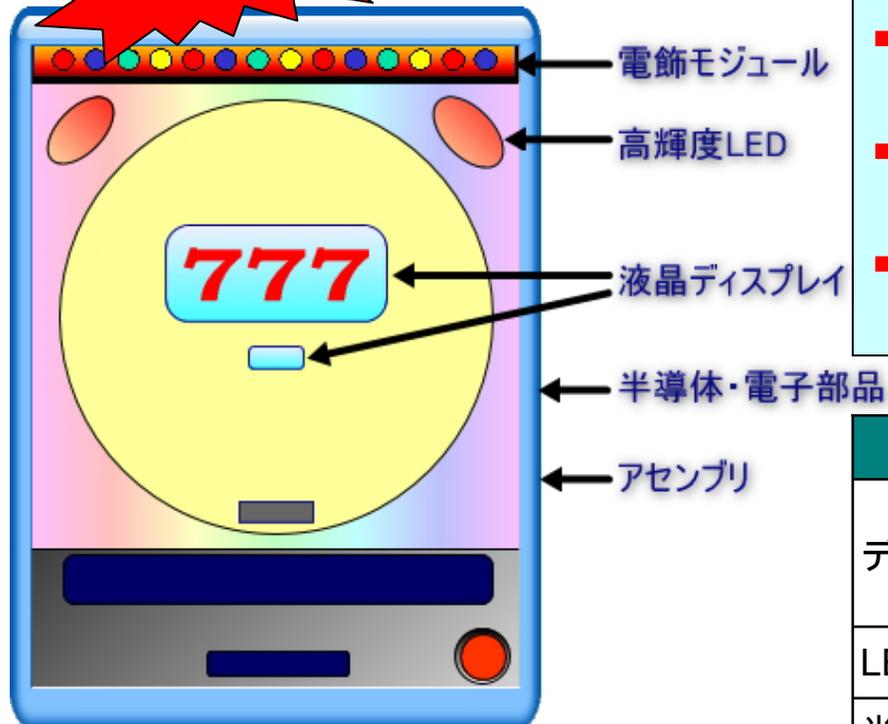
アミューズメントビジネス(1)

パチンコは新時代へ！

2004年秋からの新規格台の登場による市場の活性化！

**電飾モジュール
初採用！**

名古屋エリアでは、パチンコ台の68%を生産(2003年実績、当社推測)



- **風営法施行規則等の改正**
パチンコ台規格の見直し バリエーションの拡大
- **液晶の大型化、高精細化**
全面液晶機の登場、複数ディスプレイ採用へ
- **娯楽性の追求**
LEDの多色化、高輝度化、電飾モジュール化

主要販売品目	主要サプライヤー
ディスプレイ	東芝松下ディスプレイテクノロジー 台湾AU社
LED、モジュール	東芝、ローム、光波、豊田合成など
半導体、 電子部品	東芝、ローム、日本ケミコンなど



アミューズメントビジネス(2)

重点分野

分野	重点拡販品目	今後の展開
表示分野	液晶ディスプレイ	さらなるディスプレイサイズの拡大へ
	有機ELディスプレイ	発色および薄さで勝る有機ELディスプレイなど、次世代のディスプレイへ注力
	電飾	LED単体 LEDモジュール 電飾モジュールに注力
不正防止分野	半導体、電子部品	法規制により不正防止への取り組みが強化 新たな電子デバイスの採用が期待

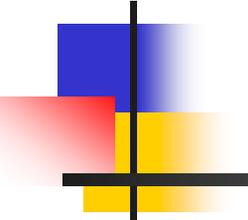
今後の課題と対応

- **企画力の強化**
需給対応から企画・提案力へ、顧客ニーズは変化
- **コスト対応力**
中国、台湾などのコストパフォーマンスに優れた電子デバイスの提案、調達
(台湾美達旗、美達奇(香港)の活用)
- **アセンブリへの対応**
M.A.Technologyの生産能力活用

海外戦略



- 顧客の海外進出
アジア地区にとどまらず、積極的に対応
- M.A.Technologyへの投資継続
- 海外製品ラインナップの拡充
モジュール製品の技術サポート体制の強化



一人当たり営業利益 効率化の追求



■ 業務改革

■ 業務改革を推進中

業務フローの見直し、改革 & 改善

基幹システムの再構築(今期順次稼働予定)

■ 購買業務の一元化

購買業務の合理化

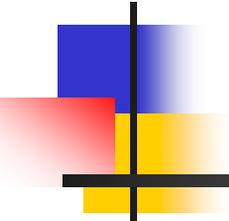
仕入価格の低減 & 在庫の低減を目指す

さらなる効率化を求めて業務改革を継続します

■ ワンストップ営業

■ 顧客の利便性の追求

■ 顧客別営業体制の維持、強化

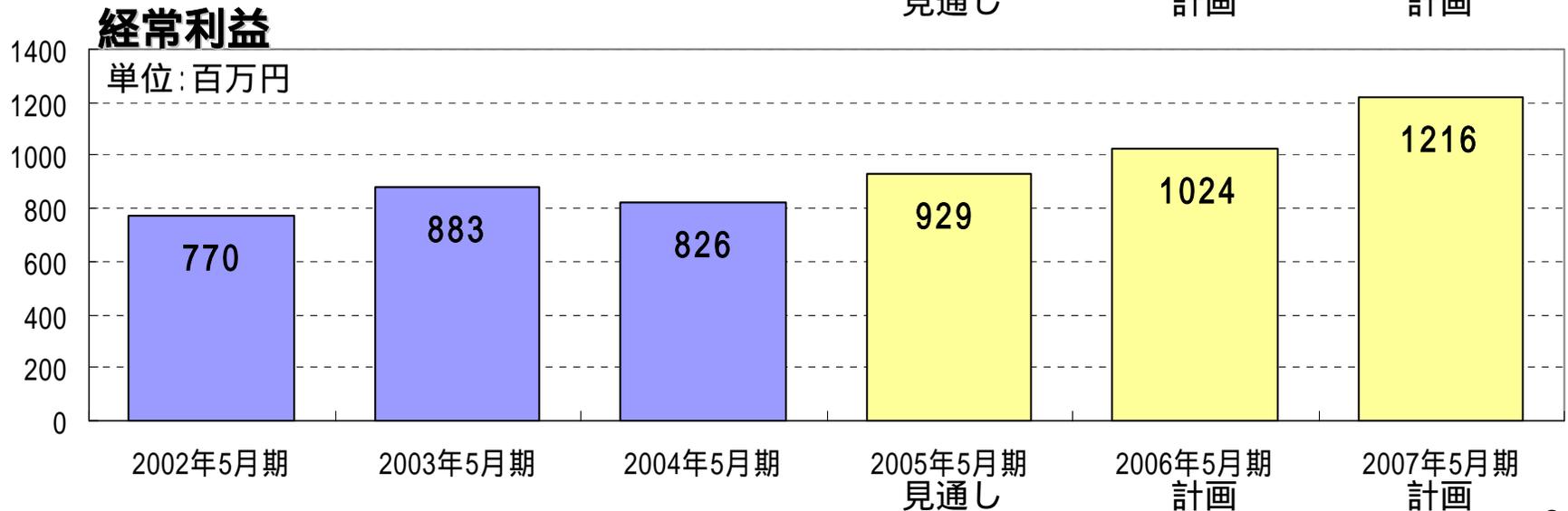
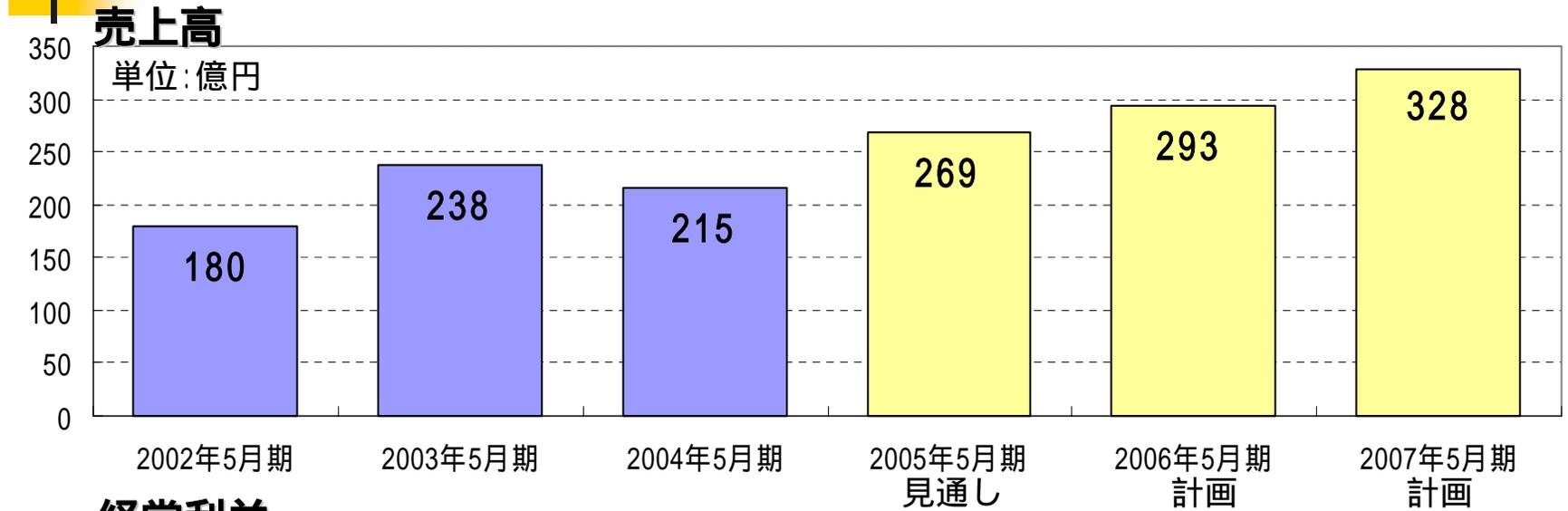


6. 業績推移(実績・計画)

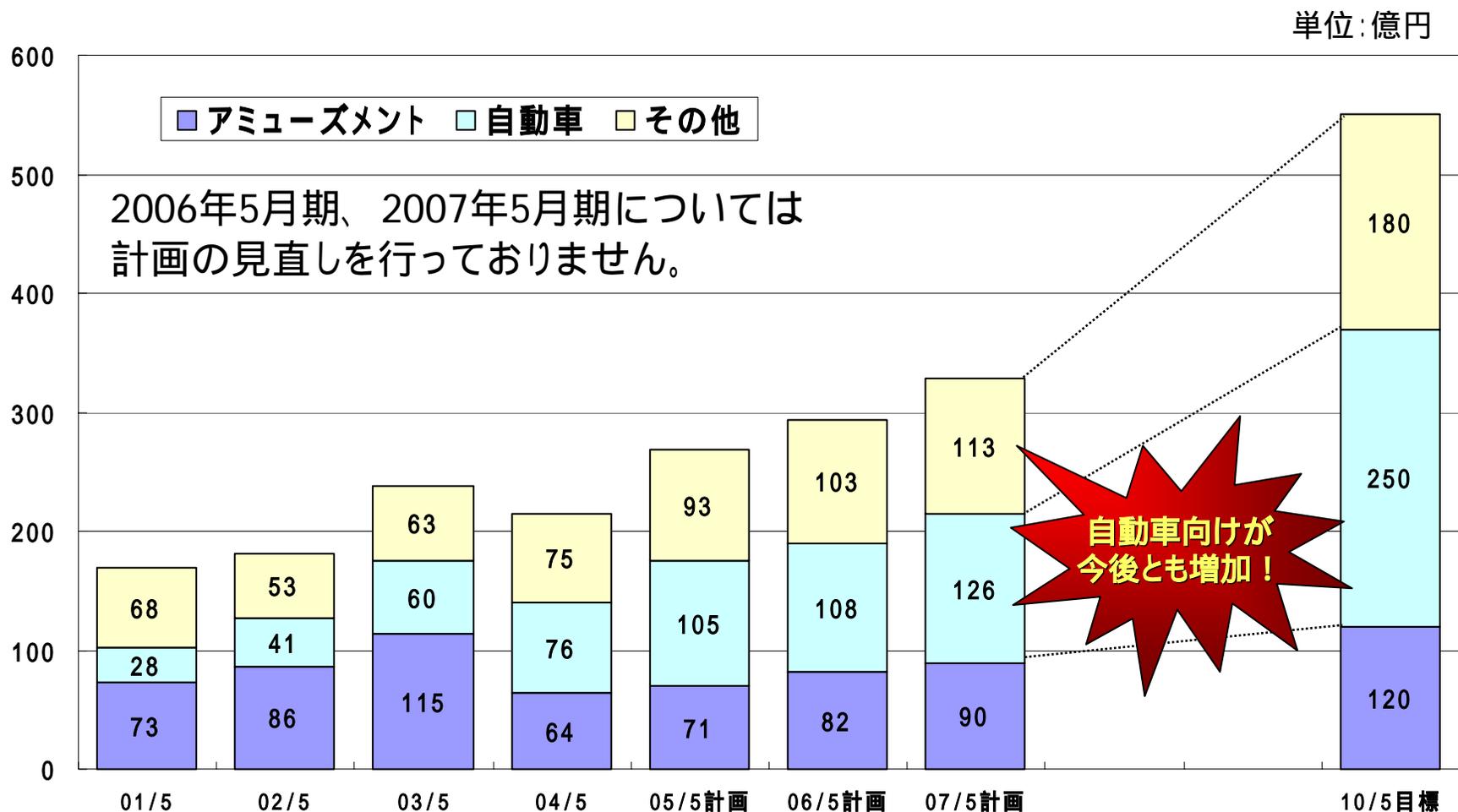
1. 売上高・経常利益推移(連結) 実績 + 3期予想
2. 中期の業績目標 業種別売上高見通し(連結)



1. 売上高・経常利益推移(連結) 実績・予想



2. 中期の業績目標 業種別売上高の推移



2001年5月期は連結しておりませんので単体売上高で表示しております。